

平成29年度 学校評価報告書(実施結果)

視点	3年間の目標 (平成29年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月26日実施)	総合評価(3月29日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>確かな知識と活用する力を育てる教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>魅力と特色ある美術科の教育課程を確立する。</p> <p>自己有用感を育む学校行事や生徒会行事等の充実をはかる。</p>	<p>基礎学力の充実に向けた授業改善に取り組む。</p> <p>「身に付けさせたい力」を推進のため、教育課程を展開する。</p> <p>普通科と美術科併置の良さをいかした教育課程を展開し指導計画を編成する。</p> <p>主体的に学び行動する力を育む文化祭・体育祭等の充実を図る。</p>	<p>研究授業や授業評価をもとに、組織的に授業の改善を図る。</p> <p>参加型授業の実践にむけた研修会などにより授業改善の深化を図る。</p> <p>生徒に身に付けさせたい力と単元ごとの目標を示す。</p> <p>組織的な補習・講習計画が行われるように企画・運営する。</p> <p>美術科併置のよさをいかした普通科の教育課程の編成と校内環境のギャラリー化を図る。</p> <p>学校行事の充実、委員会活動の活性化等によって、生徒の自己肯定感を育てる。</p>	<p>生徒が聴き考え表現する機会のある授業展開となるよう研修にて授業改善を推進した。</p> <p>基礎学力を定着させる授業にできたか。</p> <p>生徒に身に付けさせたい力の伸長を客観的に測ることができたか。</p> <p>補習・講習の組織的な企画・運営ができたか。</p> <p>美術科併置の良さを生かした教育課程編成ができたか。</p> <p>校内のギャラリー化を推進できたか。</p> <p>各行事で生徒が達成感を得られたか。</p> <p>ボランティア委員会等の活動の状況</p>	<p>生徒が聴き考え表現する機会のある授業展開となるよう研修にて授業改善を推進した。</p> <p>基礎学力を定着させる授業にできたか。</p> <p>生徒に身に付けさせたい力の伸長を客観的に測ることができたか。</p> <p>補習・講習の組織的な企画・運営ができたか。</p> <p>美術科併置の良さを生かした教育課程編成ができたか。</p> <p>校内のギャラリー化を推進できたか。</p> <p>各行事で生徒が達成感を得られたか。</p> <p>ボランティア委員会等の活動の状況</p>	<p>授業改善については、継続性を持ってよりよい方向性を示し、主体的に修養や研究ができる環境作りを推進する。</p> <p>生徒による授業評価が適正なデータとして活用できるよう、趣旨への理解を図る。</p> <p>補習・講習については、指名補習を除き、生徒の予定(部活動やアルバイトなど)との調整に課題がある。</p> <p>多様な進路を実現できる教育課程が実現した。一方で、キャリアカウンセリング能力の向上が必要である。</p> <p>二科併置のよさをいかす校内ギャラリー化を図る。</p> <p>学校行事では、生徒の積極的な関わりを促す働きかけを継続する。また、耐震化工事により、限られたスペースでの行事のあり方について検討し、生徒の負担を軽減する工夫をする。</p> <p>学校周辺地域の協力体制のもと夏季休業中のボランティア活動が2年目、生徒のボランティア活動の活性化に向け、生徒への周知の仕方を工夫する。</p>	<p>基礎力の向上を目指す科目の設置や校内授業改善等、今年度も沢山のプログラムが、学校の取組として見られたので継続していった。</p> <p>○地域の福祉祭まつり等への参加、協力により地域が活性化し、関わりが深まった。これからも積極的な参加をお願いしたい。</p>	<p>基礎学力の定着を目指し、本校の「身に付けさせたい力」を身に付けるための取組を、年間指導計画内に教科横断的に盛り込んだ。</p> <p>年間行事計画の検討により、1単位当たり35週(1050時間)の授業時間を確保した。</p> <p>生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、学習意欲の喚起を図る授業実践に取り組む、高評価を得た。</p> <p>○長期休業中の基礎学力の定着を図る補習、応用力の向上を目指す講習が基礎学力の向上を促した。</p> <p>施設設備の整備により美術科教育課程を充実させた。美術科1期生の教育課程の展開に伴う諸課題の検証が必要である。</p> <p>地元のイベントへの参加が、生徒一人ひとりの自己有用感を高めた。</p>	<p>基礎学力の定着について検証する。</p> <p>年間行事計画の精選による「量の確保」と試験問題共通化による「質の確保」について実施後の検証をする。</p> <p>補習・講習への参加数増への取組を推進する。</p> <p>美術科2期生入学と次年度3年次4専攻科目実施に伴う美術科専門科目の充実、外部機関連携や外部講師活用の精査によるカリキュラム・マネジメントを進める。</p> <p>二科併置のメリットが発揮できる仕組を構築する。</p> <p>地域と協働的な取組の機会を提供する。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>自己管理能力を育てるルール・マナー指導に取り組む。</p> <p>生徒一人ひとりの課題を支援する教育相談体制等の充実を図る。</p> <p>協調性や主体性を育てる部活動の活性化を推進する。</p>	<p>すべての生徒が安全に充実した生活を送ることができる学習環境を整備する。</p> <p>ルール・マナーを守り、他者を思いやる心を育て、よりよく社会とかかわる力を育てる。</p> <p>支援を必要とする生徒へのきめ細やかな教育相談体制の充実を図る。</p> <p>生徒が自己肯定感を実感し、成長できる場を計画的に提供する。</p>	<p>生徒とのコミュニケーション密度の向上により、いじめ等問題行動の未然防止と発生時の適切な対応を行う。</p> <p>服装・頭髪指導、SNS等の適切な使用の指導等によりルール・マナーを守る自己管理能力と他者を思いやる力を身につけさせる。</p> <p>支援を必要とする生徒について職員間で情報を共有する方法を工夫するとともに、外部機関と連携して適切な生徒支援に取り組む。</p> <p>学校行事の充実、部活動への参加促進、委員会活動の活性化等によって、生徒の自己肯</p>	<p>学習環境の向上につながる問題行動の減少と軽微化を図ることができたか。</p> <p>他者を思いやる社会性を身につけルール・マナーを守らせることができたか。</p> <p>正確な生徒情報に基づいた適切な教育相談、生徒支援を行えたか。</p> <p>生徒が自己肯定感を実感し成長する活動の場を与えることができたか。</p>	<p>様々な課題に対して迅速で適切な対応を行い、地域との連携により解決を図った。特別指導件数は昨年度より減少したが、内容に変化が見られる。</p> <p>事故防止講演会(携帯電話教室)等の効果的な実施により生徒の安全確保を目指した。</p> <p>頭髪指導は、違反者が減少したが服装指導は継続の必要がある。平成24年度からの携帯電話指導により授業中のマナーが向上した。</p> <p>教育相談コア会議を新設、支援の必要な生徒の把握に努め、情報共有した。外部専門機関との連携によるサポートにも努めた。保健室でも、健康指導のみならず生徒の精神的ケアを重視し、教育相談係と連携した生徒支援を実践した。</p> <p>保健委員会は健康診断への協力や体育祭救護に貢献し、「保健だより」作成においては主体的に活動した。</p> <p>ゴミ分別および清掃活動には課題が残るが、美化委員は啓発ポスターの作成・掲示や体育祭</p>	<p>安全安心な学校づくりという視点から問題行動未然防止と発生時の適切な対応が求められる。</p> <p>改定後の「いじめ防止マニュアル」に基づき適切な対応といじめのない環境づくりに取り組む。</p> <p>ソーシャルメディア上のトラブルが潜在するので、粘り強く啓発指導を行う。</p> <p>校内外の巡回により生徒観察し、問題行動の未然防止、盗難防止につなげる。</p> <p>自己管理能力を育てるためのルール、マナー指導として、頭髪、服装指導、授業マナーの向上などを重点指導項目とし、組織的取組体制を維持する。</p> <p>日頃から規範意識の向上に向け指導してきた。依然として登下校中のマナー指導に課題がある。</p> <p>教育相談コア会議を中心に情報収集するとともに、保健室や外部専門機関とも連携し、より一層の教育相談の充実を図る。</p> <p>委員会指導については、生徒がより主体的な取組となるよう工夫の必要がある。</p> <p>美化意識を高めるため美化委員</p>	<p>陰湿ないじめも含め、問題行動の内容が変化しているので注力の必要がある。</p> <p>先生方がよく努力をされており、特別指導件数は減少している。</p> <p>バスの乗車マナー違反や自転車の二人乗り、下校時のマナー等、ルールを守る指導を継続してほしい。</p> <p>○登下校時のマナー向上について、保護者共々、家庭での話題となるよう、指導したい。</p>	<p>学習意欲の喚起と連動した規範意識の涵養を目標とし目標達成を目指す。</p> <p>自己管理能力を育てるルール・マナー指導を継続する。</p> <p>問題行動に対する未然防止と適時適切な特別指導を実施する。</p> <p>支援教育の理念に基づく生徒指導・学習支援を推進する。</p> <p>教育相談体制の確立と、より組織的に生徒の課題に対応する。</p> <p>グループ・学年・教科の協働による横断的、組織的取組</p> <p>部活動加入者数増を目指した広報に努めるとともに、継続した活動となるよう自己有用感の醸成を目指した年間指導計画を策定する。</p>	

視点	3年間の目標 (平成29年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月26日実施)	総合評価(3月29日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
				定感を育てる。		等の行事でよく活躍した。 今年度の部活動加入率は41%で、微減中であるが全国大会に出展する文化部もあり、部活動に活気がある。				
3	進路指導・支援	・生徒一人ひとりの自己実現を支援する進路指導の充実を図る。	キャリア教育を充実させる。 自己実現を支援するガイダンス等に取り組む。	総合的な学習の時間を有効に活用し3年間を見通した指導計画を実施する。 上級学校訪問や様々な説明会、講演会などの進路学習の機会を増やす。 一人ひとりの進路希望に基づくガイダンスを計画に基づき実施する。 組織的な補習・講習の実施により自己実現を支援する。 従来の取組をいかに多様な生徒の進路実現を支援する教育課程を運用する。	適切な資料を提供し説明会等を実施することができたか。 個に応じた多様な進路の実現を支援できたか。	主体的な進路選択を促進するため、「職業体験授業」、「分野別説明会」、「上級学校/ハローワーク見学」を学年別に行った。 インターンシップ参加者は2年連続して増加した。 神奈川県専修学校・各種学校協会主催の体験活動「仕事のまなび場」にも生徒が参加した。 9月初旬に3学年就職希望者を対象として、産業カウンセラーやハローワークのジョブサポーターの協力で、模擬面接を実施した。	による啓発活動を発展させる。 部活動加入率を上げるため、中学生への広報活動や、新入生への入部案内や勧誘活動に注力し部活動加入率向上に努める。  インターンシップの事後感想文では、将来を具体的に見据えるための有意義な活動として位置づけた感想が多く見られた。多くの生徒をインターンシップ等体験活動に参加させる手立ての検討が課題である。  就職希望者対象の外部講師による模擬面接では、緊張感のある面接練習を実施できた。また専門職からのアドバイスは生徒にとって貴重なものとなった。来年度以降も続けていきたい。	○夏季休業中は、生徒が保育園で活動する。職業体験としての考えをもって積極的に取り組んでほしい。 インターンシップやボランティアの経験をいかし、卒業後も地域で活動する生徒がいる。	より多くの生徒がインターンシップに参加できる仕組みが必要である。 キャリアカウンセリングの技能向上が必要である。 大学入試改革に対応した調査書等の整備が必要である。 長期休業期間中の補習・講習の充実と参加人数増を目指す。 就職希望者全てが就職できた。専門学校進学と大学進学希望者は同数程度、進路未定者は減少傾向にある。	インターンシップについての事例紹介等を通して、日頃から進路意識の向上を図る。 教育力の継承や研修を通じてキャリアカウンセリングスキルの向上を図る。 大学入試改革に伴い、生徒の自己有用感を育むキャリアポートフォリオづくりができる仕組みを構築し、多様な進路希望に応じた進路指導の充実を図る。
4	地域等との協働	・地域等との連携に努め地域と共にある学校づくりを推進する。	陶芸や美術教室など、地域に開かれた活動を展開する。 学校説明会、授業参観、授業・部活動体験等の綿密な立案とスムーズな運営を行い正確な情報を提供する。 地域防災訓練や地域貢献活動を通して地域との協働を図る。	春と秋に穴窯焼成を行い地域の大勢の方々に見学に来てもらうための広報に取組む。 中学校訪問や資料送付などの広報広聴活動を行う。 HPの随時更新により常に新しい情報を公開していく。 年間計画に基づき地域貢献活動や防災訓練に積極的に参加させる。	地域の方々に、広く適切に内できたか。 地域や中学校等に広報内容の理解を図り意見を聞くことができたか。 生徒の防災や地域貢献に対する意識が深まったか。	大倉山記念館での校外展では630名来場、同時実施の個別相談会には30件の相談があり関心が高かった。穴窯焼成では春220名、秋180名の見学、高評価を得た。保護者授業参観では81名、第1回学校説明会では420名、授業部活動体験では149名、第2回説明会では390名、第3回説明会では446名の参加があった。保護者や中学生への丁寧な広報ができた。 ホームページは必要事項をタイムリーに更新できた。メール配信については業者との新契約により登録者数の把握に努めた。 PTA活動は定例会にて委員会ごとの活動報告や建設的な議論がなされ連携を深めた。	展示会や穴窯焼成など美術科外の教員参加を募り、教員の理解が深まった。美術科の活動が広く周知されるよう努力する。 学校広報・公聴の充実に向けて、機会を捉えて活動する。 中学生に概ね高評価を得ているが、説明会・授業参観の時期や回数、部活動体験の時間等は検討の余地がある。 ホームページについてさらに充実を図る中で、担当者の育成や引継ぎ等スムーズな対応が必要である。 地域防災訓練への参加については、学校防災のみならず地域連携の意義も大きい。管理運営Gと連携・研究開発Gが協力の上、継続したい。	保護者のOB会がPTAと協働的し、学校の環境整備等、積極的に学校に関わり協力したい。	美術系大学や美術館との連携を推進した学習活動や美術科生徒が地域のイベントに参加する等、美術科のある本校の特色をいかした活動を展開した。 生徒の福祉施設でのボランティアや地域防災拠点訓練への参加を継続して実施した。防災訓練、防災講話、シェイクアウト訓練により生徒の防災や地域貢献に対する意識が深まった。特に地域の防災訓練への参加、美化委員とボランティア委員の生徒が災害時の救助活動訓練を行った。	地域の防災訓練や福祉ボランティアの実績を基盤とするともに、地域の資源を活用した美術科の学習活動の実績もいかに、平成31年度学校運営協議会の開設の準備を進める。 地域防災活動、ボランティア活動等、地域貢献活動をより活性化する。
5	学校管理 学校運営	・組織的な学校運営と教育環境の整備に取り組み学校教育力の一層の向上を推進する。	・組織的な学校運営と不祥事防止に取り組み信頼される学校づくりを推進する。	新学校評価システムに基づく評価活動を着実に実施し学校運営の改善を図る。 教職員一人ひとりが不祥事防止活動に取り組む適正に業務を履行する。 学科改編ならびに耐震・老朽化対策工事の業務を的確に行う。	評価を実施し学校運営を改善できたか。 不祥事防止活動が推進できたか。 適正な履行ができたか。	学校評議員会、PTA各種会議での意見聴取、保護者アンケート等から学校運営と改善に係る意見をj得る事が出来た。 日頃より全職員での点検を実施し、不祥事防止の取組として「適切な私費会計」「情報セキュリティ」研修会を実施した。 人権教育校内研修では外部講師によるワークショップを実施し職員の意識が深まった。 美術科新設に伴う初度調弁の検討や施設設備の検討、CG室の整備により、専門学科の充実に向け環境整備した。 耐震化工事、仮設工事に伴う連絡調整と開始に向け条件整備した。	学校運営協議会を設け、コミュニティスクールとしての仕組みを整備する。 情報管理を徹底するための環境整備をすすめる。 人権教育研修の内容は概ね好評だが実践に向けた取組に課題がある。 美術科3学年の完成年度に向け、環境整備と教育課程の充実を図る。 仮設校舎への移転にむけた物品確認、不要品の処理と必要物品の整備を適切に進める。仮設校舎引っ越しに伴う教育環境の整備が今後の課題である。	良い学校に見えるよう信頼される安心安全なコミュニティにより、地域に対する評価の向上を目指したい。 防災についての「自助共助」を考える。 耐震化工事については具体的な内容をその都度情報として知らせてほしい。	行政事務調査や情報セキュリティ監査を通して校務遂行体制を点検し適正な運用を確認できた。 ベテラン教員の事例報告による事故防止研修により理解を深めた。 教務手帳の一括管理や答案用紙の持ち帰り原則禁止に、全職員一致して取り組んだ。 中堅教員に対し、県の施策の理解と学校経営への意識を高めるOJTに努めた。 ノー会議デーの設定や会議時間短縮等、働きやすい職場作りを目指した。	学校説明会や公式ホームページの改善等、広報公聴の更なる充実を図る。 コンプライアンスの徹底、不祥事防止研修、面談、業務改善や自己啓発との関連付けにより不祥事を根絶する。 共に助け合い補い合う風通しのよい職場づくりを目指す。 本校の課題を踏まえたカリキュラム・マネジメント、支援教育の視点をもった教育相談の資質向上に向け研修機会の提供を図る。